

「びわこ国体」の開催

県一丸となった大会

特集ページで紹介している国スポ・障スポ大会が前回滋賀県で開催されたのは、今から44年前の昭和56年（1981）のことです。「びわこ国体」と称された国民体育大会では、県内各地で33競技が実施され、競技に参加した選手・監督の人数は22,540人にのびりました。スローガンは「水と緑にあふれる若さ」で、多くの県民が観戦や歓迎の催し、ボランティア活動などさまざまな形で大会に参加しました。

市内の実施競技

市内では、安曇川町総合体育館と安曇川高校体育館でウエイトリフ



今津町内を走る炬火リレー



朽木村民グラウンド



近江今津駅西口前

競技会場となった町村では、多く

ティンブ、今津中学校体育館で剣道、今津勤労者体育センターで銃剣道、朽木村・高島町で山岳競技が行われました。また、大会に先立って行われた炬火リレーは、競技会場ではなかったマキノ町、新旭町を含む6町村を通り、多くの町村民が選手や役員として参加しました。さらに大津市の皇子山陸上競技場で行われた総合開会式では、マキノ町、新旭町の婦人会員が参加した集団演技や七川祭奴振り等が披露されました。

問 文化財課

☎ (25) 8559

の地域住民や団体が大会の運営や選手の受け入れに大きな役割を果たしました。今津町では約2,000人の選手・役員が町内の旅館や民宿に宿泊した他、選手の会場への輸送には自衛隊が協力しました。また、安曇川町で行われたウエイトリフティンブは、当時の公文書等によると、「未普及競技のため町民の競技に対する関心が薄いことが心配され、競技の解説や見方などが書かれたパンフレットが作成されました。その結果予想を上回る観衆を得て、盛り上がりの中に大会を終了したことが大会後の報告書に記されています。



自衛隊車で選手輸送

編集 雑感

いよいよ「わたSHIGA輝く国スポ・障スポ2025」が滋賀県で開催されます。高島市でも国スポ4競技、障スポ1競技が実施されます。全国トップレベルの選手たちが集まり、頂点を目指して熱い戦いを繰り広げます。市内在住出身の選手たちも出場する予定です。競技の熱気や感動の瞬間をぜひ会場で感じ、全力を尽くす選手たちを応援しましょう。そして、一緒にこの大会を盛り上げていきましょう！（K）